



でんえい会誌 第19号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



＜次世代のエネルギーを考える＞

電気電子工学教育類 鶴飼 裕之

(名古屋工業大学大学院教授 副学長兼任)

バブル崩壊による後遺症をなかなか払拭できない状況が続く中で起きた東日本大震災は、戦後めざましい復興を遂げその後安定した社会・経済状態を維持してきたわが国にとっては、戦後初めて遭遇した未曾有の事態でした。復旧・復興に向けた国をあげての努力は少しずつ進んでいるとはいえ、まだまだ不自由な生活を強いられておられる人々が数多くあり、一日も早く安定した生活を取り戻すことができることを心より祈念しております。

さて、福島第一原子力発電所の事故とそれに続く電力供給不足の状況は、わが国のエネルギー計画を大きく転換させる契機となっています。現在、経済産業省資源エネルギー庁の委員会にて国のエネルギー基本計画の見直しが検討されていますが、焦点のひとつが電源のベストミックスです。震災以前は原子力発電主体(2030年で53%の計画)でしたが、省エネによる電力消費全体の削減、原子力発電縮小と再生可能エネルギー拡大による構成比率の大幅な変更が予想されます。現に、4月にはわが国の全ての原発が稼働を停止し、再稼働についての賛否が毎日のニュースとなっています。また、それに伴い、電力自由化・発送電分離など電力業界再編の議論も盛んです。再生可能エネルギーの中でも、とくに太陽光発電や風力発電は政策的にも導入が加速しており、設備容量として太陽光発電は2020年度において2,800万kW(2008年度実績214.4万kW)、風力発電は2020年度において760万kW(2007年度実績163万kW)を導入目標に掲げています。これらは実に原子力発電30機以上に匹敵する数字です。今後、政治や経済の不透明さや不安感が残るとしても、

次世代のエネルギー供給形態は大きく変わっていくでしょう。

しかし、太陽光発電や風力発電は天候や日照時間にその出力が左右されるため、安定して電力を供給するためには電力を一時的に蓄えるためのバッテリーの設置が必須となります。この電力貯蔵は電源ベストミックスの隠れた構成要素であり、電気自動車やプラグインハイブリッドを含めた充放電可能なバッテリーの普及と活用が再生可能エネルギー導入の鍵となっています。また、これら新エネルギーは小規模であり、送電系統の川下に配置される分散型電源であることも従来とは大きく異なる要因となっています。こうしたエネルギー需給形態の多元性・双方向性に対応するためには、エネルギー需給システムは大きく変化する必要があります。数年前から低炭素化社会実現に向けた新しい電力ネットワーク構想として注目を浴びている「スマートグリッド」は、まさにその役割を果たすこととなります。近年めざましい発達を遂げ、社会インフラの形成にとって欠かすことのできない情報通信技術を最大限活用することで、多様な電源を多様なエネルギー利用に繋げていくことが次世代エネルギーネットワークの重要課題といえます。

本学では、平成22年度からエネルギーデバイス・ナノエレクトロニクス・電力制御・情報通信など各分野の教員が集結し、エネルギーシステムの革新に貢献する実践的工学エリートの養成を目的とした分野統合型大学院教育コースワークを構築しました。また、17号館(以前の計測・経営の建物)改築が平成24年度予算として認められ、「スマートエネルギー研究拠点」として立ち上がることになっています。このように電気電子情報分野は工学系の主軸として、一体となって進化していくことが期待されています。電影会OB諸氏のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

＜情報処理学会 第74回全国大会＞

情報工学教育類 犬塚 信博

2011年度の情報処理学会全国大会（2012年3月6～8日開催）を名工大で開催しました。犬塚は大会幹事を務めましたので文章をお引き受けしております。

現在、情報処理学会副会長で名工大出身の水野忠則先生（静岡大学を退職、現在愛工大、経友会）が学会副会長の任から組織委員長、また、大会全体を見るプログラム委員長に本会誌にも執筆の田坂修二先生、大会の実施を仕切る実行委員長に岩田彰先生が就かれました。また、多くの皆さまに助けでこれまでにない数のスポンサーを得ました。残念ですが、列挙するスペースがないので、大会のサイト（<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/74kai/>）をご覧ください。愛知県には後援をいただきました。

大学としても大会の重要性を理解いただき共催となり、多くの教室を無料開放していただきました。本学情報工学科として重要な大会と位置付け、学科全体で実行委員会を見ることし、多くの先生の手をお借りしました。厚くお礼を申し上げます。

今回大会は講演者数1,500件超、スポンサー19件となり第70回の記念大会（東京大学開催）を除けば近年最大規模となり、大変なよろこびです。本学のほとんど全教室を必要とする規模です。電影会の皆様の中にもご参加いただいたのではないかと思います。大会テーマは「日常のICT・非日常のICT」、震災後の日本で新たな社会、産業をいかにICTが担うことができるかを最大のテーマとしました。

招待講演では岩田教授のお世話でトヨタ自動車技監、ITSジャパン会長渡邊浩之氏、伊藤孝行准教授のお世話でハーバード大のD. C. Parkes教授、またIEEE Computer Society会長のJ. Walts教授を招きました。また、この他にも特別イベントを多数開催し、この中には本学の情報基盤技術を中心に議論する松尾啓志教授、内匠逸教授の企画イベントも含まれます。

4月にオープンした新しい大学会館、食堂を利用できなかったのが唯一残念でしたが、懇親会も浩養園で開催し、岩田先生にお世話いただいたテルミン演奏も好評でした。大学正門でこやかに参加者を招いた電子受付嬢のメイちゃんも大学をアピールしてくれました。情報分野、電影会の発展の新たなステップにつながったと思います。

＜名工大・名市大合同テクノフェア2011に参加して＞

電気電子工学教育類 森田 良文, 佐藤 徳孝

2011年10月19日（水）から22日（土）の4日間、ポートメッセなごやにて開催された「名工大・名市大合同テクノフェア2011」に出展しましたので、その様子をレポートさせていただきます。

本イベントは、本学と名古屋市立大学の連携協力の一環として開催しております。今回は心機一転、さらなる両大学の研究シーズと企業ニーズのマッチングの機会の増加を図り、産学連携を推進するために「次世代ものづくり基盤技術産業展－TECH Biz EXPO 2011－（主催：名古屋国際見本市委員会）」との併催事業としました。今回のメインテーマを「安心で豊かな未来社会を目指して－医・薬・工の挑戦－」として、両大学から42名の研究者による53ブースの出展や出展者全員によるショートプレゼン、またシーズ発表会が行われました。

私どもの研究室では、「テラメイドリハビリ訓練支援ロボット」と「移動ロボットの操縦インターフェース」と題して、以下の4点の展示を行いました。脳卒中などにより運動機能に障がいを持った患者さんを対象として、患者さんの一人一人の症状に適したテラメイドリハビリ訓練を提供できるロボット。患者の回復度合いを数値として「みえる」ことで客観的な評価を可能とするリハビリ効果評価装置、パーソナルモビリティや電動車いすなど公共環境で移動するロボットを幅広い年齢層に対して簡便に操縦可能とするための仮想的俯瞰画像提示システムと可動式おもりを搭載したSegway、以上が展示した研究内容です。



一生懸命に説明する学生の様子（展示ブースにて）

4日間で約120名の方々が私どものブースに足を運んでくださり、情報交換や交流が活発に行われました。中には私どもの展示内容に大きな興味を持っていただいた企業があり、その企業とは、現在ともに、機器の開発などの「ものづくり」をしています。この企業では機械設計からソフトウェア開発までを行えるため、私どもにとって大変心強いパートナーとなっています。このような展示会へ参加する意義、そして産学連携の重要性を強く感じています。

今後とも、産学連携の推進のために、OBの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

＜就職状況について＞

電気電子工学教育類 就職担当 壬生 攻

平成24年3月卒業予定の電気電子系研究室在籍学生の就職担当を務めさせていただきました、壬生でございます。今年度は、大学院生116名、第一部学部生136名、第二部学部生35名、合計287名の学生（進学希望者等を含む）を対象に、進路指導を行って参りました。

例年通り、3月半ば過ぎから大学院生の面談と学校推薦者の調整を予定しておりましたところ、東日本大震災が発生し、私自身もつくば市の小学校で一夜を過ごすことになりました。震災直後は、各企業の採用計画の変更状況が判らないまま、当初の予定通り学校推薦者の決定を進めて行きましたが、その後、例年通り採用活動を進める企業と、6月まで採用活動を延期する企業に分かれることになりました。最近では学校推薦者の内定率が2/3程度まで落ちている中、採用活動を延期する大企業に推薦枠で挑戦することを決意した学生達は、かなり不安な2ヶ月を送ることになりました。4月末時点での内定率は、大学院生で28%、第一部学部生で21%、第二部学部生で13%と、リーマンショック後の前々年度・前年度（大学院生で50%）と比較しても、かなり低い滑り出しとなりました。学生も例年以上に浮足立っていたことと思いますが、8月末にはほぼ前々年度・前年度並の内定率（大学院生で93%、第一部学部生で88%、第二部学部生で57%）まで回復しました。その後、卒業式の時点では、例年通り高率の内定をいただいております。なお、今年度は、大学院定員をオーバ

ーしない方針を一段と強めて大学院入試が行われた影響もあり、第一部学部生の大学院進学率は、前々年度・前年度よりやや少なめの7割弱となりました。

昨今のオール電化の流れに伴い、電気電子系学生に対するニーズは、多種多様な業種に広がっています。今後、一般大学生の就職難が続く中でも、電気電子系の学生に対しては、ますます出口が広がっていくものと予想されます。

末筆になりましたが、人事担当責任者やリクルーターなどとして学生の就職活動を御支援いただきましたOBの皆様や関係者の方々に、深く御礼申し上げます。

情報工学教育類 就職担当 佐藤 淳

今年度の就職活動は、史上最悪と言われた昨年度からの復活が予想され、体力を取り戻された企業の採用数の増加が見込まれていました。ところが、推薦の希望調査を終えた3月11日に発生した東日本大震災は、そのような採用増加の期待をいっぺんに吹き飛ばしただけでなく、多くの企業が採用時期を急遽6月に繰り下げた結果、4月採用開始と6月採用開始の二重構造が発生し、学生にとっても大学にとってもこれまでにない難しい就職活動を強いられた年でした。

この未曾有の事態の中で、学生達は志望企業の絞り込みがなかなか進まず、一度決めた企業から心変わりするなど心が大きく揺れ動いていました。企業の方々にとっても例年にならぬ採用活動となったことから、採用スケジュールがなかなか決まらないケースが少なくなく、例年は6月頃までに一段落する就職活動が今年度はずると8月頃まで続きました。

結果的にはお陰様で昨年度よりも若干状況が改善し、2月末の時点で情報系の大学院修士102名、学部学生34名の内定が確定し、また学部学生117名の大学院進学もすでに決まっていることから、就職担当としてほっと胸をなでおろしております。求人会社数もリーマンショック直後には250社程に減少していましたが、今年度は373社にまで増加しました。特に、この時期だからこそ名工大の良い学生が取れると新たに会社説明に来られる新規企業が増加しており、学生の就職先のバリエーション

も多彩になりつつあります。

OBの方々にはリクルータとして多くのご支援を頂き、特に状況のよく見えなかった今年度においては、学生達にとって非常に心強い存在であったことと思います。多くの企業においてOB諸氏が活躍され、また後輩を大切に思っていることが、本学の就職力につながっていることをつくづく感じます。

リーマンショック、大震災と予期せぬ事柄が次々と発生し、このところ学生の就職活動は翻弄され続けておりますが、来年度こそは順調に就職状況が改善することを祈っております。OB諸氏におかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

<ご退任される先生から>

情報工学教育類 教授 田坂 修二 電気情報工学科の創設と再編

私は、名古屋工業大学に教官（教員）として、昭和 51 年 4 月から 36 年間勤務させて頂いた。情報工学科に 9 年、電気情報工学科に 19 年、そして新しい情報工学科（情報工学教育類）に 8 年である。私にとって最も印象に残っているのは電気情報工学科である。これは、単に勤務期間が最も長いということだけではなく、本学の長年の悲願であった大学院博士課程設置と連動しているからである。

本学への博士課程設置は、大学昇格以来、諸先輩方が大変な努力をしてきた最重要事項であった。武藤三郎学長（電気工学科出身）の時代に、いわゆる“60 年改組”とともに、博士課程の設置が文部省に認められた。すなわち、昭和 60 年に、旧来の 14 学科制度を解消し、新たに 6 学科を創設したのである。

電気情報工学科は新 6 学科の一つで、これまでの電気工学科、電子工学科、情報工学科を 1 学科に統合して、新たに 7 大講座編成とした。大学院は、学部への積み上げ方式で作られ、昭和 61 年に電気情報工学専攻（博士課程）が設置された。博士課程設置の当初案（昭和 58 年度）では、学科（専攻）名称は、電気情報工学科ではなく、電気系工学科（電気系工学専攻）となっていた。しかし、学科名に“系”を用いるのは適切でないという意見や、情報の名前が

名工大の学科名から消えるのは得策ではないという要望もあり、最終的に“電気情報”が選択された。

電気情報工学科の大きな特徴は、学科の構成や運営方法を土台から作ったことである。電気情報工学科の教官の出身母体は、旧 3 学科に加えて、旧材料開発研究施設、旧共通講座教室があり、それらの教官を、出身母体にかかわらず適切な講座に配置した。そのため、学科の運営方法を新たに考える必要があり、教室会議では白熱した議論が交わされることが多かった（最近の教室会議の状況では、想像できないほどであった）。これは、電気情報工学科教官の出身母体は多様であったが、皆が真剣に新しい学科を作ろうとした結果である。小規模ながらも、一種の異文化交流であり、当時の大学としては珍しい状況であった。同窓会も、電気工学科と電子工学科の電影会と、情報工学科の校友会があったが、電影会に 1 本化して一体化を図った。本学の他の新 5 学科では状況は異なっていた。学科名称は新しくなっても、運営は旧学科のものを踏襲していることが多く、このことは現在でも残っている。

電気情報工学科の教育も新たに考える必要があった。3 学科から 1 名ずつの教員が代表として選ばれ、新カリキュラム案の作成が行われた。電気工学科からは松井信行教授、電子工学科からは稲垣直樹教授、情報工学科からは私であった。検討課題は多かったが、最も重要なのは、学科が対象とする広範囲の専門分野をいかにカバーするかであった。1 種類のカリキュラムでは科目数が膨大になるため、物性デバイス、電力制御、情報通信、計算機システムの 4 コースを設けることになった。しかし、学科の運営は一体であり、卒業研究では、コースにかかわらず、どの研究室にも行けるようにした。

研究体制では、博士課程にふさわしい研究レベルを達成するために、講座制の強化が図られた。旧 3 学科では研究室の運営方法は様々であったが、電気情報工学科では小講座での研究教育体制（教官グループ制）を実現していった。この方針は、博士課程学生の増加とともに研究レベルの向上へと繋がった。

電気情報工学科の体制は、平成 15 年の領域制の導入による講座制の解体と、翌年の国立大学法人化によって消滅した。平成 16 年に、電気情報工学科は、知能情報システム学科とともに、電気電子工学科と

情報工学科とに再編された。領域制の下では、教員の所属組織は領域であり、教育類で学部教育を担当するので、電気電子工学教育類と情報工学教育類とになったわけである。当初は、主担当、副担当という考え方があり、教員は二つの教育類に関与する場合も多かった。しかし、今では、この考え方はなくなった。また、1教員による研究室運営も増えてきており、研究の細分化傾向もみられる。学科や講座間の壁をなくすという、領域性の当初の理念があいまいになり、教育類間や研究室間の壁が高くなりつつあるように思えるのは、私だけであろうか。

どのような組織にも長所と短所はある。電気情報工学科もそうであり、電気情報工学科を美化するつもりは毛頭ない。この体制における教育・研究の短所を痛感したことも多々ある。しかし、電気情報工学科の長所も現体制下では失われつつある。領域制と教育類体制の長所を伸ばしていくことを期待したい。

情報工学教育類 教授 和田 幸一 名古屋 28 年, そして

1984 年 4 月に情報工学科 (旧) に奉職して、電気情報工学科、情報工学科と合わせて 28 年間電影会と名工大にお世話になりました。1985 年に大学院博士課程設置に伴う学科改組で情報工学科は電気情報工学科に改組されたため、情報工学科として採用された最後の教員 (当時は教官) になりました。私が採用された当時の情報工学科のスタッフは、田坂先生が今年度定年でおやめになられるため、今年度で全員辞められたこととなります (岩田先生は一度辞められている)。私は中途退学の身ではありますが、年月の長さを痛感します。

このたび私は、東京の法政大学に転職することになりました。大阪で生まれ、学生時代を大阪で 28 年過ごし、名古屋に来てこれまた 28 年、人生の半分を名古屋で過ごしたこととなります。あと 28 年東京で過ごせるかどうか自信はありませんが、心機一転頑張って 28 年生きてみたいと思っています。

詩人の長田弘さんの詩に、あらゆるものには距離があり、あらゆるものは距離を生きている。そして、あらゆるものとの距離を測りながら人間は生きてい

るといふのがあります。人生の半分を過ごした名古屋との距離なんていままで考えたことがなかったけれど、今回東京に移ることになり、名古屋との距離が変わり、名古屋への思いもどのようになって変わっていくかをじっくり見届けたいと思っています。私は電影会の名誉会員 (迷員?) であり、電影会には貢献できませんでしたが、これから距離が変わりこの距離を保ちながら、微力ながら電影会ならびに名工大を応援していきたいと思っています。

最後になりましたが、電影会と名工大のますますの発展を祈念し、筆をおきたいと思います。

電気電子工学教育類 准教授 川口 健

昭和 44 年に電気工学科に入学しました。その年は学生運動が活発で、東大の入試がなく、私たちは千種の河合塾で入試を受けました。また入学しても約半年間授業が行われませんでした。無事卒業し、大学院は大阪大学に進み、昭和 56 年に本学の材料開発研究施設に助手として奉職しました。その後電気情報工学科、計測分析センターと変わり、大型設備基盤センターで定年を迎えました。

学生時代の約 40 年前、名古屋の中心街は市電が走っていて、今池より遠くには田や畑がたくさんありました。のどかなものでした。都市高速網ができてから名古屋は東京や大阪のような大都会に変わりました。同じように名工大のキャンパスもずいぶんと立派になりました。昔の面影が残っているのは講堂ぐらいだと思います。当時は木造の古い校舎が多くあり、冬の授業は実に寒い思いをしました。正門の前には電気工学科の古い建物がありました。工大祭ではお化け屋敷が作られ、相当な人気を集めていました。

名工大に奉職してから約 31 年間お世話になりました。多くの方の助けをいただき教育・研究をはじめもろもろの業務に携わってきました。一番長く所属していたのが計測分析センターから大型設備基盤センターにかけてです (約 14 年間)。

大型設備基盤センターは大型装置の数、予算規模、教職員の人数などで大きく発展してきました。文科省も注目しています。これからも発展を続け、名工大の屋台骨を支えるものになると思います。この発

展の流れに参加でき、微力ながらも貢献できたことは、私にとって大きな喜びであります。少子高齢化の流れにあっても名工大が地域産業の活性化に寄与して大きく発展していくことを心より願っております。

電気電子工学教育類 助教 蛭子 博志

定年退職を迎える。1967年（昭和42年）、第2部電気工学科に入学してより45年の歳月が過ぎた。入学した一年間は、千種グラウンドのあるところに校舎があり教養の授業を受けた。第二部の先輩が当時、大学で働きながら学んでいた。校舎の庭でとれた枇杷、桃や梨を食べさせてもらった。田舎で育った私にとって心とむ一年目であり、良い大学に来たという印象をもったことを昨日のこのように思い出す。翌年1968年（昭和43年）から今の51号館、52号館と53号館が教養部としてスタートした。その後大学紛争の真只中に、昭和44年には大学をバリケード封鎖するなど激動と混乱の時代だった。しかし、多くの友達ができ、今もその友情は続いている。1972年（昭和45年）から、本学の技官として勤めはじめ、教務職員、助手、助教として教養教育の「物理学実験」を担当してきた。退職を迎えるまでの42年間に約2万人を超える学生諸君と共に学び、社会に送り出すことができたことを誇りに思っている。この間、様々な改善をし、実験テーマにも工夫を凝らし、電気電子工学科のように一度に150名の学生が実験できる体制を作ることができた。各テーマで教員・TA・技術部の人と共に実験指導に当たっている。多人数であってもきめ細かい指導が可能な体制をとっている。「物理学実験」を通して専門実験・卒業研究に当たって困らないだけの基礎的素養を身に付けてほしいと願っている。電影会は多くの卒業生と交流できる場を提供している。大学生活で多くの友と友情を育み、社会の中核として活躍している姿を思い描きながら、学生の皆さんにエールを送りたい。

<OBと学生の懇談会について>

庶務理事 安井 晋示

電影会では、学生への還元サービスとして、卒業生（電影会正会員）と学生（電影会準会員）との親睦会

を開催している。今年度は、1月27日（金）に、名工大講堂会議室で行われ、今回で第6回となる。

学内幹事の先生方など通じて、卒業生28名が集まり、学生は41名の参加があった。参加学生の内訳は、大学院生が41名、学部生3名であった。また、2名の教員にもご参加いただいた。来賓として、名古屋工業会常務理事の二扶様、情報工学専攻長の森田先生、電気電子工学科教育類長の市村先生、就職担当の桜井先生、情報工学科教育類長の犬塚先生、就職担当の石橋先生をお招きし、電影会役員11名を加えて総勢88名となった。

学生にとって、卒業後の社会生活や仕事の実態、採用状況に関する情報の収集ができ、卒業生にとっても企業のPRや企業に対する学生の意識の把握ができるとあって、盛況のうちに終えることができた。この企画は今後も継続したいと考えており、今後もOBの皆様のご支援をお願い申し上げます。

<電影会記念樹について>

2011年9月4日、大型で強い台風12号が、四国・中国地方を縦断し、紀伊半島における土砂災害など、各地で非常に大きな被害をもたらしました。名古屋でも非常に強い風が吹き、本学の16号館東側に植樹されていきました「電影会創設50周年記念」の記念樹が写真のようになぎ倒れてしまいました。

この記念樹は、昭和54年5月18日に植樹され、これまで、電影会の長い歴史を見守ってきてくれましたが、非常に残念です。



台風により倒れてしまった記念樹

平成 23 年度事業報告

1. 会合
 - 電影会総会 H.23.5.20 名工大 2 号館
 - 第 1 回役員会 H.23.10.31 名工大 6 号館
 - 学内幹事会 H.23.12.13 名工大 2 号館
 - 第 2 回役員会 H.24.2.9 名工大 2 号館
 - 幹事会 H.24.3.26 名古屋工業会館
2. 事業
 - 学生向け講演会
 - (1) H.23.10.21(一般公開)
株式会社日建設計 設備設計部門 設備PM部長 渡邊 薫 氏
「東京スカイツリー～日本を元気にする世界一のタワーを目指して～」
 - (2) H.23.10.28(一般公開)
名古屋工業大学特任教授 小田 修 氏
「化合物半導体材料と企業における研究開発について」
 - (3) H.23.11.11(一般公開)
株式会社バンダイ 取締役 松永 真理 氏
「感性を形に:i モード開発の事例から」
 - (4) H23.5.20(学生のみ)
大同大学 田中 秀和 氏
「JABEEと技術士制度」
 - (5) H23.5.27(学生のみ)
新和実業(株) 橋本 英樹 氏
「技術とは何か／技術と技術者倫理」
 - 新入生向け電影会案内 H23.4.7
 - 卒業祝賀会 H24.3.23
 - 電影会会誌発行(第 18 号)H.23.4
 - 大学行事補助 12 件
 - 卒業生と学生との懇談会 H.24.1.27

平成 23 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,442,559	通信費	655,843
入会金	1,645,000	印刷費	685,256
工業会より	70,000	事務費	2,049
利息	243	会合費	326,519
雑収入	0	学生行事費	614,740
寄付金	1,230,050	大学行事費	160,000
		総会補助	114,000
		支部活動費	250,000
		インターネット経費	223,930
		雑費	31,000
		人件費	300,000
		繰越金	4,024,515
合計	7,387,852	合計	7,387,852

平成 24 年度事業計画 (案)

1. 会合
 - 電影会総会 ○役員会
 - 幹事会 ○学内幹事会
2. 事業
 - 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
 - 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会
 - 電影会ホームページの充実
 - 大学行事への補助
 - 卒業生と学生との懇談会
3. その他
 - 名古屋工業会との連携

平成 24 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,024,515	通信費	650,000
入会金	1,600,000	印刷費	650,000
工業会より	70,000	事務費	20,000
利息	200	会合費	250,000
雑収入	0	学生行事費	650,000
寄付金	1,000,000	大学行事費	100,000
		総会補助	100,000
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	100,000
		雑費	0
		人件費	300,000
		繰越金	3,724,715
合計	6,694,715	合計	6,694,715

平成 24 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎(E昭13)
 犬飼英吉(E昭28)
 神谷昌宏(E昭36)
 中村光一(E昭41)
- 会長 北村正(Es昭48)
- 副会長 加藤規(E昭30) 土居秀行(E昭37)
 川村信之(E昭53) 曾我哲夫(E昭57)
- 理事 杉本富彦(E昭50) 山中清(J昭52)
 竹下隆晴(E昭57) 三宅正人(E昭60)
- 監査 市原正樹(E昭48)
- 庶務理事 廣瀬光利(E昭50)
 安井晋示(E昭62)
- 会計理事 酒井公孝(J昭54) 大園忠親(I平7)
- 編集理事 青木睦(EJ平4) 立岩佑一郎(I平14)
- 庶務補佐 南角吉彦(I平11)
- 会計補佐 伊藤宏隆(EJ平6)

学位取得者一覧

情報工学専攻

平成 23 年 6 月課程修了者 (授与日:平成 23 年 6 月)

氏名	論文題目	主査教員名
藤田 桂英	Automated Multi-Agent Negotiation Protocols for Highly Nonlinear Utility Space	伊藤 孝行

平成 23 年 9 月論文申請者 (授与日:平成 23 年 9 月)

伊藤 健二	インフラ協調車車間通信システムの設計及び QoS 制御技術に関する研究	田坂 修二
-------	-------------------------------------	-------

平成 24 年 3 月課程修了者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

趙 章植	Study on Detecting Emotion from Voice Based on a Bayesian Approach	加藤 昇平
服部 公央亮	動的計画法による音と画像の高精度認識に関する研究	梅崎 太造
BAO TUYA	TRAJECTORIES FOR SASAKIAN MAGNETIC FIELDS ON HOMOGENEOUS REAL HYPERSURFACES IN COMPLEX SPACE FORMS	足立 俊明
山西 良典	Study of Music Effects on Human Factors and Its Application	加藤 昇平
AZLAN ABD AZIZ	Cooperative Relaying Techniques for Wireless Networks	岩波 保則
SUBANA THANASEGARAN	A Topological Approach to Implement a Conflict Detection System for Time-based Firewall Policies	高橋 直久
MOHAMED FAROOK NAZRE	A Study on Efficient Consensus Algorithms for Byzantine-Prone Distributed Systems	和田 幸一

論文申請者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

山中 幸雄	1GHz 超の電磁妨害波の特性及び妨害波測定法に関する研究	藤原 修
-------	-------------------------------	------

機能工学専攻

平成 24 年 3 月課程修了者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

朱 友華	Study on Performance Improvement of GaN-based Light Emitting Diodes Grown on Silicon (111) Substrate	江川 孝志
山下 哲朗	近藤格子系三元化合物の探索とその低温電子物性の研究	大原 繁男
MUHAMMAD MUHIBBULLAH	Deposition of Copper Oxide Thin Films by Chemical Techniques (化学的手法による酸化銅薄膜の堆積)	市村 正也

平成 24 年 3 月課程修了者 (授与日:平成 24 年 3 月 30 日)

PUM CHIAN KHAI	Study on GaN-based Materials and Devices Grown by MOCVD	江川 孝志
----------------	---	-------

論文申請者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

蛭子 博志	六方晶 B_4TiO_3 型構造をもつ AMF_3 結晶中に形成される三価磁性不純物 Cr^{3+} 中心の EPR による研究	大原 繁男
-------	--	-------

未来材料創成工学専攻

平成 24 年 3 月課程修了者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

KHATRI ISHWOR	CARBON NANOTUBES TOWARDS SOLAR CELL APPLICATION	曾我 哲夫
梁 劍波	Synthesis of copper oxide by thermal oxidation	曾我 哲夫

平成 24 年 3 月課程修了者 (授与日:平成 24 年 3 月 30 日)

山田 伊智子	有機フッ素化合物を用いた有機薄膜太陽電池に関する研究	林 靖彦
--------	----------------------------	------

創成シミュレーション工学専攻

論文申請者 (授与日:平成 24 年 3 月 23 日)

山口 弘次郎	MRI 用 RF パルス関数の設計と循環器領域の動態解析への応用に関する研究	鶴飼 裕之
--------	--	-------

入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。
平成24年度入学者選抜状況

電気電子工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	10	84	45
志願者数	32	219	298
受験者数	32	215	161
合格者数	9	90	59

情報工学科 (一部)

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	20	94	50
志願者数	71	334	312
受験者数	71	298	184
合格者数	30	94	53

第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気電子工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	20	14
受験者数	20	14
合格者数	7	6

編入学・転入学 (3年)

	電気電子 (一部)	情報 (一部)
募集人員	若干名	若干名
志願者数	27	13
受験者数	26	13
合格者数	12	4

電気情報工学科 (二部:一般選抜前期日程)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	33	31	6

大学院・情報工学専攻 (博士前期課程)

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	42	78	若干名
志願者数	44	146	23
受験者数	44	143	20
合格者数	43	91	8

大学院・情報工学専攻 (博士後期1次選抜)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	8	8	8

※機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻の選抜状況は省略

平成23年度卒業生就職状況

	電気電子工学科			情報工学科		
	大学院	一部	二部	大学院	一部	二部
卒業者	116	132	34	118	161	8
進学者	5	89	5	5	119	2
研究生		5		0	3	0
一般企業	106	32	19	104	33	6
公務員	1	0	1	1	1	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	1	0	0	3	0	0
休学他	3	4	5	1	2	0
未定者	0	2	4	5	4	3

※大学院:機能工学専攻・創成シミュレーション工学専攻・未来材料創成工学専攻・産業戦略工学専攻を含む

学生の学会表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称(受賞日), 氏名, 所属, 指導教員氏名
電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞(2011.6), 渡邊達也, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 石橋豊教授
電子情報通信学会通信方式(CS)研究会奨励賞(2011.7), 宮下裕司, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 石橋豊教授
合同エージェントワークショップ&シンポジウム 2011 (JAWS2011) 学生優秀論文賞(2011.10), 柳田大輝, 創成シミュレーション工学専攻 M1, 松尾啓志教授
情報処理学会第118回 OS 研究会最優秀学生発表賞(2011.8), 熊崎宏樹, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 松尾啓志教授
平成22年度情報処理学会東海支部学生論文奨励賞(2011.6), 池谷友基, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 松尾啓志教授
第1回 FUJI コンテスト(平成23年)最優秀賞(2011.9.22), 前橋亘:情報工学専攻 D1, 甲木裕一:同専攻 M1, 松尾康平:電気電子工学科 B4, 岩崎誠教授
平成23年電気関係学会東海支部連合大会電気学会論文発表賞(2012.1.23), 池田純, 情報工学専攻 M2, 岩崎誠教授
霜寿賞, (社)日本電気技術者協会中部支部(2012.3.23), 村松孝哉, 第二部電気情報工学科B5, 森田良文教授
日本音響学会 学生優秀発表賞(2011.9.21), 塩田さやか, 創成シミュレーション工学専攻 D3, 徳田恵一教授
日本音響学会 学生優秀発表賞(2011.9.21), 鹿住恭介, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 徳田恵一教授
日本音響学会東海支部優秀発表賞(2011.12.21), 大野博之, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 李晃伸准教授
日本音響学会東海支部優秀発表賞(2011.12.21), 彭湘琳, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 徳田恵一教授
日本音響学会 学生優秀発表賞(2012.3.14), 間瀬純美, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 徳田恵一教授
2011年電気学会産業応用部門 優秀論文発表賞(2012.8.22), 由井直基, 情報工学専攻 M2, 竹下隆晴教授
IEEE CE Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award(2012.01.16), 作田泰隆, 情報工学専攻 M1, 桜井優教授
名古屋工業大学 副学長表彰(2012.3.16), 吉田敦史, 機能工学専攻 M2, 加藤正史准教授

名古屋工業大学 副学長表彰(2012.3.16), 安田智成, 機能工学専攻 M1, 加藤正史准教授
情報処理学会第73回全国大会 推奨卒業論文認定(2011.5.13), 篠田昭人, 情報工学科研究生, 白石善明准教授
情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO)2011 優秀プレゼンテーション賞(2011.7.8), 伴拓也, 情報工学専攻 M1, 白石善明准教授
情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO)2011 優秀論文賞(2011.8.26), 伴拓也, 情報工学専攻 M1, 白石善明准教授
第9回情報学ワークショップ奨励賞(2011.11.25), 情報工学専攻 M2, 脇田知彦, 白石善明准教授
第74回情報処理学会全大学生奨励賞(2012.3.6), 西浦翔平, 創成シミュレーション工学専攻 M2, 岩田彰教授・白石善明准教授
第74回情報処理学会全国大会学生奨励賞(2012.3.6), 義則隆之, 情報工学科 B4, 白石善明准教授
The 26th of the International Conference on Information Networking (ICOIN2012) Excellent Paper Award(2012.2.2), 福田一隆, 情報工学専攻 M2, 岡本英二准教授
電気関係学会東海支部連合大会奨励賞(2012.1.23), 興水佑太, 情報工学専攻 M1, 岡本英二准教授
The 29th AIAA International Communications Satellite Systems Conference (ICSSC2011) Best Student Paper Award (2011.12.1), 京拓磨, 情報工学専攻 M1, 岡本英二准教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞(2011.6.3), 不破康宏, 情報工学専攻 M2, 岡本英二准教授
情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞(2011.5.16), 宮越喜浩, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授
日本感性工学会 優秀発表賞(2011.9.3), 増田恵, 情報工学専攻 D1, 加藤昇平准教授
12th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, Best Presentation Award(2011.9.30), 若林昭徳, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授
2011 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science, Best Poster Award(2011.11.9), 角野翔太, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授
第9回情報学ワークショップ 奨励賞(2011.9.3), 小笠原宏樹, 情報工学科 研究生, 加藤昇平准教授
平成23年度電気関係学会東海支部連合大会 連合大会奨励賞(2012.1.23), 三村明寛, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授
第74回情報処理学会全国大会 学生奨励賞(2012.3.8), 岩井亮, 情報工学科 B4, 加藤昇平准教授
第74回情報処理学会全国大会 学生奨励賞(2012.3.8), 藤田洋平, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授
名古屋工業大学 学生研究奨励副学長賞(2012.3.16), 山西良典, 情報工学専攻 D3, 加藤昇平准教授
名古屋工業大学 学生研究奨励副学長賞(2012.3.16), 宮越喜浩, 情報工学専攻 M2, 加藤昇平准教授

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。

昭7 清水弘	加藤文男 新井允之 松下昭 櫻井秋麿 吉田昭二
昭13 大原栄 井上文太郎 中村嘉平	伊藤敏夫 小柴博 田中三男 岡本兼喜 村川邦夫
昭14 菊地秀樹 多田良之 蛭川達雄 山本滋	竹内節 安藤舜皓 井上堅司 恒川三郎 佐橋輝男
昭15 田浦義朗	高橋保 大橋武 牧野和正 渡邊嘉津夫 中川秋好
昭16 今井威昌 水野宏行 井上順弘 横井實 辻良男	宮内孟 太田順三 福住靖治 物種壺政
阿部勝美 杉山貞夫 小岩浩 林佳範 清水良夫	日比野登志雄
佐々木茂	昭24 田中督啓 岩田昭三 守友孝夫 田坂弘次郎
昭17 山本富男 宮田清 服部弘 岡田円一 猪島克己	川添登美夫 福田政 渡辺孝宏 芝謹一
昭18 本間吉夫 中村正 青木保 大場鋭吉 櫻井尚	昭25 荻野孝 白井光雄 後藤正 泉館昭則 林文雄 加藤裕
小川澄三 久保利道 永島達雄 祖父江晴秋	青山春彦 森本浩 間瀬卓夫 安良城勝也 中村正夫
小林進 伊藤哲二	須田馨 梶浦孝一 野畑昭夫
昭19 今井田正敏 中村敏夫 岩田幸二	昭26 吉野毅 高木博彦 福井啓一朗 伊藤健男 阪口貢
昭20 伊藤博英 早川欽也 高橋祐三 丸地敏之 伊藤勝	岩下湛光 渡邊辰巳 林正雄 小澤智士 兼子共明
小野田稔 浅野義夫	沖辻寛 西川弘 押田安成 松原英二 藤田利夫
昭21 柘植基次 伊藤光芳 松井康太郎	原行一 加藤隆 加藤正昭 伊藤春光 松永明
昭22 石川幸雄 臼杵謙治 伊藤季彦 大前三千男 大橋五郎	波多野寅英 小林繁利 奥村士郎 加藤登 久富道和
市川儀男 稲垣米一 三木忠夫 遠藤正敏	加納愛信
原口泰三 佐藤和夫 玉田博二 神谷昭美 西川清司	昭28 社本一郎 須田耕司 岡田博 稲森康之 西澤明
横井吉彦 村上庄之介 吉田三雄 三栗谷信雄	嶋田宏 国立健二 山田新一 山田速水 宇佐美和保
安藤政之 (故)石黒盛男 大友博幸 川口史郎	日比野正憲 杉岡太郎 山田哲雄
市川公一 西川清司	昭29 廣瀬皓二 七滝健夫 志賀弘 國島尤 伊藤英輔
昭23 熊崎憲次 堀彦兵 中井二夫 水谷末一 分部力	都筑登 本田哲三 井野鐵彦 藤垣節男 伊藤昭夫
	加藤昭三 西垣茂 渡邊康男 岡村正孝 木原清博

- 昭30 武田節子 内田忠良 石川朝二 加納俊朗 阿部静基
恒松隆男 不破幸雄 井口晃也 三島進 北野祐一
加藤規 中西洋二 中條栄夫 岩崎晃
- 昭31 大嶋光朗 三ツ石喜郎 梅村英三 辻村尚明 武藤保
小澤昌夫 浅井利夫 伊藤親之 安藤文夫 宇野尚
熊澤義美 倉田怜 鈴木敏孝 丸山薫 木林宗治
中曾透
- 昭32 山口昌幸 岡野修 中場保彦 新剛実 三輪純一郎
水谷安郎 金田桂太郎 守山茂一郎 森千鶴夫
今村哲 植田俊男 平川宗市 久保仁 藤井栄磨
中塚茂 中川秋好
- 昭33 青山忠司 寺社下政美 中谷恭朗 前島一雄
荒井英二 高橋等 森下正三 中林幹夫 加藤愛郎
木村欽哉 安井邦夫 竹内儀行 兵藤隆 水野光雄
松村久郎 寺林康治 畑雅恭 伊藤正秋 金谷嘉博
石川二郎 藤田正浩 木村隆信
- 昭34 山田篤三 俵康雄 岡田明義 芦崎重也 鈴木倭
森島茂樹 山田要 草野洋 行本貞夫 松田功
沢田正弘 藤井寿崇 伊藤智彦 紅林勝 清水政克
吹野勝重
- 昭35 大谷健嗣 三浦允之 岡本倫夫 金子勝蔵 梅野正義
森田甫之 岡野達夫 後藤秋生 岡田昌孝 藺田耕一
片岡省三 中西和義 渥美一二 広瀬久城 佐藤哲
人見眞信 岡田至 保母金朗 野口弘之 富田安正
- 昭36 山田克彦 神谷昌宏 本村義質 小田征一郎
馬路才智 西村秀夫 大野隆一 堤格士 安藤元吉
細野猪三雄 後藤英夫 黒田和助 水谷忠夫
佐藤照夫 津久井勤 増田勝一 定本建二
- 昭37 鬼頭博明 野田昭 田中一義 土居秀行 水谷欽弥
久保村徳太郎 玉野元一 加藤祥三 半田徹
高橋宏一 牧田勝美 木村光夫 戸倉康文 伊藤信大
林貞夫
- 昭38 是木修一 中谷光男 小田切啓幸 田口守彦
- 昭39 田村英也 鴨下功 水澤健一 加藤勝英 津崎芳三
服部昭三 山田政雄 下前哲夫 梅津寛 水谷滉
山本俊伸 岡田守弘 岩間紀男 矢田公一 竹田之紀
吉田嶽彦 浅野勝弘 加藤潔
- 昭40 飯塚昌之 山口義民 大西旻 小柳徹夫 林敏男
山本健美 大倉正敏 大隅東也 鈴木紀夫 鈴木雅美
墨谷真蔵
- 昭41 石丸隆英 大島俊蔵 大場直之 渡辺本 大島孝二
八島武久 中村光一 神本勝巳 丹下正彦 亀尾恭司
都留之館 稲葉次紀 谷辰夫 前越久 武井恵一 森充
宇野啓一 瀬瀬重篤 梶田省吾 彦坂紘二郎
大庭正豊 八神正彦 松本健一
- 昭42 川島征一郎 水野重雄 吉村洋典 水野義裕
佐原定義 阿江勉 小島一男 伊藤洋太郎 橘昭成
青木猛 飯田武伸 宇佐美忠男 中山静夫 櫃本紘一
西浦哲慶 森健 佐野周造 清水修
- 昭43 重見健一 佐々木春生 加藤尚志 太田忠久
牧野正俊 鈴木清明 横林正雄 高橋俊之 百瀬次生
福政修 沢野勝 湯本攻
- 昭44 奥野郁弘 菅野宗二 木原清 佐藤恒夫 村田扶美男
大久保陽一 柴田俊夫
- 昭45 上田政博 松村好高 中島豊四郎 野口義廣
浅井正之 森公 橋本和弘 村手誠 後藤輝孝
- 昭46 川上光雄 荒力 浅井良 宇野和夫 荒木稔
- 昭47 川越英二 田島耕一 加藤元三郎 池田敏行
石割三千雄 前田克民 山本巧 原尾則行 山内一昭
- 昭48 川端康己 市原正樹 山下典雄 北村正 三木敏裕
米谷忠俊 中島正敏 小野正路 青井利樹 青山昭五
池田奨輝 大島一能 菊池芳男 甲田有男 須藤恭秀
田中秀和 中辻等 中山修三 西岡義明 安木成比古
山下典雄 山田俊文 若江谷新治 米山高志 船井真
蓮田史則
- 昭49 朝倉吉隆 飯塚圭亮 須藤敏雄 赤木泰文 渡辺進
丸本秀一
- 昭50 荻原義也 浜岡重男 浅井良一 眞鍋和人 廣瀬光利
三宅辰博 有本由弘 丸山実
- 昭51 山田秀夫 恩地秀男 吉村元 岩波保則 志垣幹夫
山田清 太田仁啓 竹上俊次
- 昭52 佐内進 森壽保 爾見正樹 宮脇誠 久保田徹
有本英樹 内海和彦 山中清 塩見佳久 浅見秀樹
- 昭53 川村信之 岡内清弘 木村準 藤原亨 東山禎夫
稲永俊二
- 昭54 片桐彰夫 村上仁志 大前義信 加藤修 吉田誠治
- 昭55 中田義朗 岩崎政彦
- 昭56 山口初一 大江準三 吉田直人
- 昭57 谷本弘二 安藤幹人 谷本弘二 竹下隆晴 高橋清
菊間信良 片桐崇 野口俊彦, 曾我哲夫
- 昭58 合掌和人 浅井英利 星野昭広
- 昭56 石橋豊 萩原秀和
- 昭57 横山清子 丸山俊彦
- 昭58 松尾啓志
- 昭59 酒井泰誠
- 昭62 犬塚信博 平田達也 日比野純孝
- 昭59 徳田恵一 原田知育 小栗宏次 柴田伝幸
- 昭60 竹田明弘 平野智 早瀬実 日比野敬介
- 昭61 熊崎昭 太田貴敏 高石一慶
- 昭62 森田良文 羽賀政雄 水谷清信 安井晋示 榊原崇
- 昭62 小栗宏次
- 昭63 郷地元博 鎌田和弘
- 平1 林宏明 八木健 佐野文泰
- 平2 隅田光一
- 平3 黒柳奨 榊原久二男 伊藤嘉浩 谷口一哉 林信也
- 平4 柴田尚吾 青木睦 山縣英広
- 平5 中村剛士 加藤昇平
- 平6 井原健次 加藤利通 伊藤宏隆
- 平7 石川茂 松井俊浩 美頭幹也 大園 忠親
- 平9 田中美弘
- 平10 山口泰功 布目敏郎 加藤正史 石川博康
- 平11 酒向慎司
- 平14 立岩佑一郎 村瀬真吾
- 平15 谷口和弘 磯貝亮 川原淳平
- 平16 石川雄二郎 小松正幸 古橋政義
- 平18 夏目恵介
- 平20 西村実海 渡辺浩平
- 平21 岩島匡秋 長谷川拓矢 佐藤匡泰 長谷川高之
鬼頭稔 高月一樹
- 平23 坂本智哉 鹿田景之 間下遥平

学科近況

◎ 学科役職(電影会関連教職員のみ)

新年度が始まり、電影会関連の学科の担当も以下のようになりました。

平成 24 年度電気電子工学教育類

電気情報工学教育類

教育類長 水野 幸男教授

副教育類長 岩波 保則教授 大原 繁男教授

平成 24 年度情報工学教育類

教育類長 犬塚 信博教授

副教育類長 高橋 直久教授 佐藤 淳教授

平成 24 年度情報工学専攻

専攻長 竹下 隆晴教授

副専攻長 岩波 保則教授 新谷 虎松教授

平成 24 年度就職担当

電気電子工学教育類 桜井 優教授

情報工学教育類 石橋 豊教授

菅原 真司 准教授

◎ 平成 23 年度退職教職員

電気電子工学教育類

藤原 修教授 (定年退職)

川口 健准教授 (定年退職)

蛭子 博志助教 (定年退職)

◎ 情報工学教育類

田坂 修二教授 (定年退職)

和田 幸一教授 (転出)

◎ 平成23年度新任教職員

電気電子工学教育類(H23.4.1)

佐藤 徳孝 助教

安在 大祐 助教

総会通知

平成 24 年度電影会総会並びに懇親会のお知らせ

日時:平成 24 年 5 月 25 日(金)

17 時 00 分~20 時 30 分

会場:<総会・講演会>名古屋工業大学

23 号館 1 階 2312 教室

<http://www.nitech.ac.jp/access/index.html>

<懇親会>大学会館大食堂

会次第: 16 時 30 分 総会受付開始

17 時 00 分 総会

17 時 30 分 講演会

演題:「昨今の電力需給状況と次世代
電力システムについて」

講師: 鵜飼 裕之 氏

名古屋工業大学 副学長

18 時 30 分懇親会(大学会館)

懇親会会費: 5,000 円

(当日会場受付で頂きます)

なお、昭和 37 年 3 月の御卒業で総会に御出席の各位には、ご卒業満 50 年をお祝いいたしましてご招待させていただきます(懇親会費無料)とともに、ささやかではありますが、記念の品をお贈りいたします。今年も学科

長、就職担当教授をはじめ多数の教員、博士後期課程(ドクターコース)の留学生を含む在生も出席予定です。皆様お誘い合わせの上のご出席をお待ち致しております。

お知らせ

名古屋工業会第46回通常総会が、5月26日(土)に開催されます。皆様振るってご参加のほどよろしくお願いたします。

詳細につきましては、名古屋工業会のホームページ(<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>)をご覧ください。

寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、ならびに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願申し上げます。

なお、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。また電影会は2011年3月11日に起こった震災の被災者の皆さまへの義援金募集をいたしましたところ、会員の皆様から31,000円のご寄付をいただき、2月23日に日本赤十字社を通じて寄付いたしましたのでご報告いたします。これもちまして、東日本大震災における電影会による義援金事業を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

一口 : 2,000 円

郵便振込先:00860-9-19618 電影会

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1 ページ約 1600 字です。

編集委員 曾我 哲夫(E昭57)

安井 晋示(E昭62)

大園 忠親(I平7)

立岩 佑一郎(I平14)

青木 睦(EJ平4)

発行 名古屋工業大学内電影会

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

Tel: (052) 735-5459 (ながれ領域事務室)

Tel: (052) 735-5427 (事務:安井庶務理事)

Fax: (052) 735-5427 (事務:安井庶務理事)

E-mail: office@denei.jp

URL: <http://www.denei.jp/>